

教科	科目	学年	単位数
教養科学	英語探究Ⅱ（W）	2 (人文・社会系、物性・生命系)	3／6
使用教科書		副教材	
新訂版 チャート式 GRAND EARTH 基礎からの新々総合英語（数研出版）		英単語ターゲット 1900(旺文社)、 Next Stage(桐原書店) 標準英文法語法問題 1000(いっずな書店)	

1. 学習目標

1＝英語を英語として運用するための前段階として欠くことのできない正しい英語の「ルール」を確実に身につけ、

2＝英語のさまざまな言語活動を通じ、英語運用の前段階の基礎となる精読力、速読力、構造理解力、解釈力、文法力、聴解力、発信力、語彙力、解答力等の各能力の部分的向上を目指しながら

3＝英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

2. 評価の観点と方法

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 定期試験や、朝テスト、授業における小テストの結果などを総合的に評価する。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 定期試験、授業における小テスト、表現活動などを総合的に評価する。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 授業態度、オンライン英会話、課題への取り組み状況などを総合的に評価する。

3. 学習内容

1＝語彙に関する事項：コミュニケーション英語Ⅰ及び英語探究Ⅰの全単語に加え700語程度の新語。

2＝文構造に関する事項：文構造のうち運用度の高いもの。

3＝文法に関する事項：以下の文法事項の基礎、標準、及び一部の発展項目。

A：時制（基本時制、完了時制、進行形、完了進行形等）

B：助動詞（基本形、助動詞＋完了形、助動詞＋受動態等）

C：態（能動態と受動態の基本形、それぞれの完了形、それぞれの進行形、それぞれの完了受動形等）

D：不定詞（基本形、形式主語、形式目的語、完了不定詞、受動不定詞、否定不定詞、完了受動不定詞等）

E：動名詞（基本用法、完了動名詞、受動動名詞、否定動名詞、完了受動動名詞等）

F：分詞（現在分詞と過去分詞の基本用法、限定用法、叙述用法、各種の分詞構文等）

G：接続詞（等位接続詞、従属接続詞等）

H：関係詞（関係代名詞、関係副詞、限定用法、継続用法、複合関係詞等）

I：比較（同級、比較級、最上級の基本、否定比較、比較の応用等）

J：仮定法（仮定法過去、仮定法過去完了、仮定法未来、仮定法現在等）

K：特殊構文やその他の事項（強調、否定、倒置、省略、間接疑問、代名詞、名詞、冠詞等その他の事項）

注）物性系、生命系ではA L Tの授業が週1単位行われる（ライティング及び音声言語活動が中心）。

＊ 授業内でWeblio Studyによるスピーキング・トレーニング等も実施する。

4. その他（科目の特徴や学習の注意点など）

学習方法の詳細（ノートのとおり方、宿題の仕方、授業の受け方等）については各担当者からその都度説明があるのでそれに従うこと。

	月	単元	授業内容	その他（到達目標・学習のポイントなど）
1 学期	4	1年次の総復習 REVIEW	左記「3. 学習内容」の基礎、 標準、及び発展項目。 1年次の総復習	1＝学習のポイント この科目では英語を英語として習得するための大切な前提となる英語の文法（ルール）について正しい定着を目指します。この科目では特に <u>ルールをしっかりと「理解した後の復習」</u> こそが大切です。正確なルールをしっかりと学んでください。ここがしっかりとしていれば後の伸び率が大きく違います。目指すべきは感性英語ではなく「理性英語」です。まずは「正確なルール」を身につけていきましょう。
	5	@第17章 CONJUNCTION	接続詞	
	6	@第10章 COMPARISON	比較	
	7	@第23章 INTERROGATIVE	疑問詞	
2 学期	8	@第12章 SUBJUNCTIVE MOOD	仮定法	2＝朝テスト（詳細別紙） 単語力以上には英語力は向上しません。こつこつ積み上げてください（その他C英語Iと同様です。併せて読んでください）。 3＝到達目標学力 CEFR＝A1～A2
	9	@第15章	強調、倒置、省略、挿入、同格	
	10	EMPHASIS, INVERSION...		
	11	以下、3月まで1～2年の 総復習、演習、実践から高 3レベルへの連結（または	総復習等（または無生物主語、 名詞構文、名詞、冠詞、代名詞、 形容詞、副詞、前置詞等）	
	12	第16、18、19、20、 21、22、23、24章 を行うこともある）		

3 学 期	1			＊１年を通じての学習姿勢として 「英語の学習＝毎日のごはん」です。みなさんは１日ご飯を食べなかったり、１週間分をまとめて食べたりしたらおなかをこわしてしまいます。英語も同じです。何も学習しない日があったり、まとめて１週間分学習してしまう日があるような学習スタイルではいけません。毎日適量の学習を継続してください。要は、 ～毎日・適量・継続～ です。英語をぜひ得意科目にしてください。
	<u>2</u>			
	3	＊下線を施した月には定期試験が予定されている。	＊ＡＬＴの授業ではライティング及び音声言語活動を中心に行う（物性系及び生命系のみ。なお人文系及び社会系は国際日本でＡＬＴの授業を行う）。	

＊当シラバスは生徒の現状や実態等に配慮しながら変更することがある。また科目の目的を達成するために必要と思われる時はテキスト以外の教材に差し替えることがある。